



2023年11月 1日

日本鉄道労働組合連合会

2023連合ジェンダー平等推進中央集会

男女が共になってあらゆる分野で ジェンダー平等を推進しよう！

連合は10月27日、東京都「きゅりあん大ホール」において「2023 連合ジェンダー平等推進中央集会」を開催した。この集会は1989年以前の労働4団体時代から続いており、昨年までは「中央女性集会」という名称であったが、近年男性の参加も増えたことや男女平等参画社会実現のためには男女双方の理解が重要であることを踏まえ、誰もが取り組むべき課題であることを改めて明示する意味からも「ジェンダー平等推進中央集会」と改称された。集会は現地参加とWEB視聴の併用で開催され、現地には男性365人・女性426人、WEBでは535アカウントが参画した。JR連合も現地参加とWEB視聴に分かれ、合計15人が参画した。

冒頭、挨拶に立った連合の芳野友子会長は、「今年発表されたジェンダーギャップ指数は、日本は146か国中、過去最低の125位となった。ジェンダー平等推進は男女が共に力を合わせて取り組むことが必要。皆の意識の変化で行動を変えていこう」と訴えた。

集会の前半では、連合本部からジェンダー平等推進計画についての基調提起があり、その後基調講演として「クミダンの『壁』ークミジョ・クミダン問題を科学する」と題して

サービス産業の労働問題を専門としている武庫川女子大学の本田一成教授の基調講演があった。本田教授は、「労働組合は、潰れない・皆のための組織・保守的などの特徴があり、変革が難しい組織であるがゆえ、ジェンダー平等という変革も困難となっている」と指摘したうえで、「だからこそ私たちはその特徴を認識したうえで、変革に取り組むべき



連合本部からの基調提起に聞き入る会場の様子

必要性がある」と力説した。

後半は構成組織や地方連合会の代表を交えたパネルディスカッションがあり、他組織の取り組みや今後の課題、抱負、それぞれが考える“クミジョ”活躍の突破口などが紹介された。

集会終了後、JR連合の現地参加者とWEB視聴者が一堂に会し、本集会で得た知識や感じたことをそれぞれの単組に持ち帰り、今後の活動に活かしていくことを確認した。



現地にはJR連合を代表して6人が参集した